

は富田家と輔田家に乱暴をした。夕闇が迫ってきた。

その夜、明正寺で数人のごえんさんと村役らが話し合った。どんな意見が出たのかはわからないが、ともかく翌十二日の早朝寺々の鐘が打ち鳴らされ、南無阿弥陀仏と書いたむしろ旗を先頭に、竹槍や鍬をもった一団が河和田の谷を西へと下って行った。

「みんな出て来い。出てこんやつはヤソだぞ。家を焼いてしまっぞ。」
と、口々にわめきながら。打ちこわしが始まったのだ。

落井・松成・四方谷を通って庄境・粟田部へ向かった一団は、大区長や豪農・豪商の家々をこわし、大きい寺院に火をつけた。

それは十三日も止まなかった。川島を通り横越のご本山に集まった暴徒らは、

「ヤソ宗を拒絶すること」、「真宗説法を再興すること」、「学校に洋文を廃止すること」の三つの要求を書いて、制庄にかけつけたお上に差し出した。

この要求が受け入れられたと思つた人々は、ホツとして家路を急いだ。

ところが、翌日からお上の厳しい取調べが始まった。一人一人調書をとられ、禁固三ヶ月や

懲役三十日、罰金では三円から七十五銭までがそれぞれに課せられたのである。ちなみに米一俵が一円二十銭くらいだったから、村々は莫大な代償を支払って、維新の大波をはらいのけたのであつた。当時は敦賀県に属していたから、敦賀のにしん倉に捕らわれていた人のために、親戚や隣人が、徒歩で差し入れに出かけたのであつた。

この取調べの最中に、明治天皇はようやく断髪されたという。それほどチヨンマゲを切ることは男にとって一大事だったのである。

④9 キツネに化かされて

キツネの話は、子供のころ、いろいろばたで親父さんから耳にタコができるくらい聞かされたも

キツネには天狐・白狐・管狐・野狐の四つがあつて、年をとると神通力が備わってくるんや。

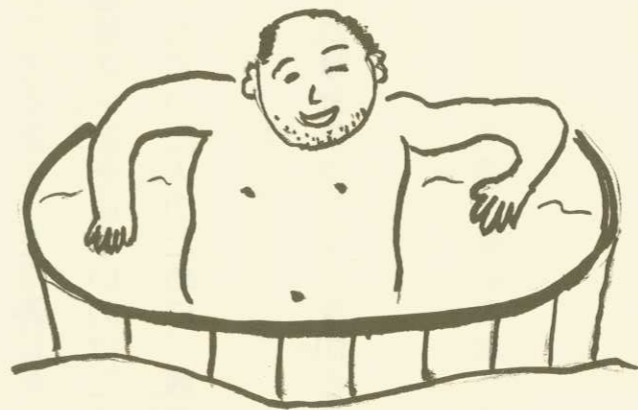
天狐は一日に一万八千里も走れたんやと。

白狐は神さまのお使いで、稻荷神社に巻物をくわえているあれや。

管狐はよその家から「お金を取って来い。」というのと、ちゃんと取って来るんや。そして、「いのお金は何日までに返して下さいよ。」と念をおしていく。もしその日までに返さんと、「早く返せ、早く返せ。」とせめたて、絶対に返させるんやと。

野狐は河和田にはいつぱいいて、ちようちよ悪さをしたもんや。

まんまと引掛かった人は多いんやで。まっ昼間に、塗ったばかりのあせ道をな、「なんて歩きにくいんやろ。」とブツブツ言つて通つていった人。ひどいになると、畑中の臭い野つば(肥溜め)に入つて「ああ、いいお湯や。」とうっとりしてた人もあつたと。



小倉谷は、椿坂の川の水源になつてる。その谷川の途中に大きな岩があつて、下は深い水たまりになつている。ここは一乗谷に越える坂の途中で、旅人もよう通つたんや。

そこでは京でも見かけんような

美しい女が岩に腰かけて、

旅人にほほえみかけるんやと。

思わず、「娘さん、娘さん。」

と声をかけると、女は身軽にひらりと向こう岸に移る。

旅人は夢中で追いかける。いばらで着物や手足はきずだらけ、ぬれねずみになりながらも、ひきつけられるように追いかける。

こんなことが何度かあつて、山仕事の男たちが、「またキツネに騙されているぞ。気の毒なこつちや。」と、旅人を助けたそうな。

それでこの岩のあたりを、キツネ谷とかヨバイ谷と呼ぶようになったと。

